

【平成20年度】

◆赤崎陽子

「一映画祭とは何か—映画祭の歴史と現在」／「映画祭」と「コミュニティシネマ」に関する基礎調査報告書(コミュニティシネマ支援センター、2008年6月20日)

講演「赤い陣羽織」について／第64回国際フィルムアーカイブ連盟パリ会議(シネマテーク・フランセーズ、2008年4月23日)

◆板倉史明

「(映画に関する総合的な辞典の項目執筆)」／世界映画大事典(日本図書センター、2008年6月30日)

「124本の映画フィルムを寄贈」／全米日系人博物館ニュースレター(2008 Spring Volume 11)

「メディアの広場。フィルムを守り、継承する」／視聴覚教育(財団法人 日本視聴覚教育協会、2008年7月号)

「日本映画と文学—領域横断的な研究の可能性」／国文学論叢第30号(国士舘大学国文学会、2009年3月)

講演「日本における映画保存」／第3回 映画の復元と保存に関するワークショップ(会場：京都府京都文化博物館、2008年8月30日)

講演「日本における映画保存」／「第3回映画の復元と保存に関するワークショップ」in 東京(会場：協和会の蔵、2008年11月8日)

講演「視線と眩暈—美空ひばりのアクション時代劇」／第13回日本映画シンポジウム「女侠繚乱 日本映画のなかの女性アクション」(会場：明治学院大学白金校舎、2008年6月21日)

講演「日本映画と文学—映画研究の可能性」／国士舘大学国文学会(会場：国士舘大学世田谷キャンパス多目的ホール、2008年10月)

講演「映像メディアにおける音分析へのアプローチ」／マス・コミュニケーション学会メディア史研究部会(会場：フィルムセンター小ホール、2008年10月23日)

◆入江良郎

「ノンフィルム：収集、フェアユースとアクセス」／映像文化の創造と倫理 立命館大学映像学部現代GP「映像文化の創造を担う実践的教育プログラム」報告書(2008年度)(立命館大学映像学部、2009年3月25日)

「(映画に関する総合的な辞典の項目執筆と資料編纂)」／世界映画大事典(日本図書センター、2009年6月30日)

◆岡島尚志

「映画、フィルムで保存を」／朝日新聞(朝日新聞社、2008年5月24日)

「FIAF70周年記念マニフェスト」／ジャーナル・オブ・フィルム・プレザベーション(FIAF、2008年10月)

「分科会「シネマテーク・プロジェクト」、映像学芸員—資格の新設とその目的」／全国コミュニティシネマ会議2008 in 仙台 報告書(コミュニティシネマ支援センター、2009年1月31日)

「デジタル保存の“3C”原則 デジタルvs フィルム(改訂版)」／学術情報研究 2009年3月号 [通巻207号](学術ソフトウェア情報研究センター、2009年3月10日)

「フィルムセンター、映画保存、デジタル・シフト」／彩の国ビジュアルプラザ広報誌VPLA第19号(埼玉県、2009年3月13日)

「フィルム・アーカイブの活動と倫理的問題について その最前線」／映像文化の創造と倫理 立命館大学映像学部現代GP「映像文化の創造を担う実践的教育プログラム」報告書(2008年度)(立命館大学映像学部、2009年3月25日)

「フィルム・アーキビストの未来／フィルムセンターの仕事」／映像アーカイブのノート(NPO法人映像メディア創造機構、2009年3月31日)

「(映画に関する総合的な辞典の項目執筆)」／世界映画大事典(日本図書センター、2008年6月30日)

報告「パンドラの箱——フィルム・アーカイブと権利問題」／国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)第64回パリ会議(会場:シネマテーク・フランセーズ、2008年4月22日)

報告「FIAF70周年記念manifesto」／国際フィルム・アーカイブ連盟第64回パリ会議(会場:シネマテーク・フランセーズ、2008年4月25日)

報告「フィルム・アーカイブの活動と倫理的問題について その最前線」／立命館大学 特別講義(会場:立命館大学、2008年5月2日)

報告「To Have and Have Not—日本における返還映画の経験」／韓国映像資料院(KOFA)新館開館記念シンポジウム(会場:韓国映像資料院、2008年5月10日)

報告「フィルム・アーキビストの未来／フィルムセンターの仕事」／NPO法人映像メディア創造機構セミナー「アーカイブの未来」(会場:東京藝術大学大学院映像研究科、2008年7月26日)

報告「映像学芸員—資格の新設とその目的」／全国コミュニティシネマ会議2008 in 仙台 分科会「シネマテーク・プロジェクト」(会場:せんだいメディアテーク、2008年8月30日)

◆岡田秀則

「(映画に関する総合的な辞典の項目執筆)」／世界映画大事典(日本図書センター、2008年6月30日)

「フィルム・アーカイヴという想像力」／[中央評論(中央大学出版部)第264号、2008年7月31日発行]

「シネマテークの新しい力」朝日新聞(朝日新聞社) 2009年2月21日夕刊

報告「『撮る』と『撮られる』—眼の座標をめぐるドキュメンタリー映画の歴史から」／日本文化人類学会第42回研究学会(会場:京都大学吉田キャンパス、2008年6月1日)

報告「シネマテークの昨日、今日、明日」／せんだいメディアテーク「スタジオ・レクチャー」(せんだいメディアテーク、2008年9月21日)

「旅の終わり—袋一平とソビエト映画ポスター」／「東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵 無声時代ソビエト映画ポスター《袋一平コレクション》カタログ」(フィルムセンター、京都国立近代美術館編集、2009年1月8日)

◆榎木 章(発表者名=とちぎあきら)

「途方に暮れつつ、集めつづける—海外に残存する戦前日本映画を対象としたフィルムセンターの映画収集事業」／Intelligence第10号(20世紀メディア研究所、2008年8月28日)

「デジタルを通してフィルムが見える—フィルム・アーカイビングの現場から」／日本写真学会誌第72巻第1号(日本写真学会、2008年2月25日)

「極私的に、アーカイブの仕事を通してフィルムの媒体・保存・復元を考える」／映像文化の創造と倫理 立命館大学映像学部現代GP「映像文化創造を担う実践的教育プログラム」報告書（2008年度）（立命館大学映像学部、2009年3月25日）

報告「フィルム・アーカイブ～フィルムの資料的価値と魅力について～」／神奈川県視聴覚・放送教育研究合同大会相模原大会 社会教育分科会「貴重な映像資産はフィルムで～映像資産の継承・アーカイブの役割と取り組み～」(会場：相模原市民会館第2大会議室、2008年11月14日)

報告「映画保存におけるナショナルとリージョナルの対話に向けてーフィルムセンターからの視点」／シンポジウム「地域映像の力ー新潟からの情報発信とアーカイブ構築をめざして」(会場：新潟県民会館小ホール、2009年2月7日)

報告「フィルムの身になって考える映画保存ーなぜフィルム原版の長期保管が必要か」／シンポジウム「岩波映画の一億フレーム」(会場：東京大学大学院情報学環福武ホール、2009年2月14日)

◆その他

カタログ「無声時代ソビエト映画ポスター《袋一平コレクション》」(フィルムセンター、京都国立近代美術館編集、2009年1月8日発行)

カタログ「カナダ・アニメーション映画名作選」(フィルムセンター編集、2009年3月17日発行)

カタログ「オランダ映画祭2009」(キネマ旬報社発行、キネマ旬報映画総合研究所編集、フィルムセンター編集協力、2009年2月)

【平成21年度】

◆赤崎陽子

「ジャン・ルノワールの再評価と1950年代フランスの「若者文化」」／京都国立近代美術館ニュース『視る』439号(2009年7月7日)

インタビュー「東京国立近代美術館フィルムセンター 夏休みキッズ企画「こども映画館」2009」／『美術教育』(財団法人教育美術振興会、2009年10月1日)

映画紹介記事「名画の指定席『密告』」／東商新聞(2010年1月20日)

映画紹介記事「名画の指定席『踊るニューヨーク』」／東商新聞(2010年2月20日)

映画紹介記事「名画の指定席『歴史は女で作られる』」／東商新聞(2010年3月20日)

◆板倉史明

「視線と眩暈——美空ひばりの異性装時代劇」／四方田犬彦・鶯谷花編『戦う女たちー日本映画の女性アクション』(作品社、2009年8月8日)

「フィルム・アーカイブにおける映像資料の保存と復元 歴史学にとっての映画」／『歴史評論』2009年11月号(校倉書房、2009年10月10日)

『『史劇 楠公訣別』(1921年)の可燃性ネガフィルムを同定する』／『東京国立近代美術館研究紀要』第14号(2010年3月31日)

映画研究書の解説「映画と社会心理：S.クラカウアー『カリガリからヒトラーへ』」／井上俊編『ポピュラー文化(社会学ベーシックス7)』(世界思想社、2009年4月27日)

講演「日本における映画保存」／第4回映画の復元と保存に関するワークショップ(会場：京都府京都文化博物館、2009年8月29日)

◆入江良郎

報告「演劇博物館所蔵映画フィルムの調査・目録整備と保存活用」／早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点での成果報告(会場：早稲田大学早稲田キャンパス6号館3階レクチャールーム、2010年2月27日)

◆岡島尚志

(「巻頭随想」欄)「国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)会長に就任して」／『映画テレビ技術』2009年9月号(日本映画テレビ技術協会、2009年9月1日)

「フィルム・アーカイブと映画文化」／『友 Iwanami Hall』2009年秋号No.363(岩波ホール、2009年10月10日)

(「展望」欄)「コンテンツ／キャリアの保存と分離—映画・映像の長期保存に関する一考察」／『日本映像学会報』No.149(日本映像学会、2010年1月1日)

インタビュー(類似の紹介記事が、産経新聞6月21日朝刊と読売新聞7月2日朝刊等に掲載)「世界の映画保存をさらに推進—FIAF会長に聞く」／『ユニ通信』No.5446(ユニ通信社、2009年8月6日)

鼎談の採録(鼎談者：水嶋英治、栗原祐司)「鼎談 フィルム・アーカイブ—日本の果たすべき役割—」／『ミュゼ』第90号(アム・プロモーション、2009年10月25日)

講演の採録「フィルム・アーカイブと映画上映の未来」／『全国コミュニティシネマ会議2009 in 川崎・報告書』(コミュニティシネマセンター、2010年2月26日)

講演の採録「映画保存の国際的な広がり」とアーカイブ間の協力—FIAFの活動を中心に—」／『立命館大学映像学部現代GP「映像文化の創造を担う実践的教育プログラム」報告書(2009年度)・映像文化の創造と倫理』(立命館大学映像学部、2010年3月25日)

講演(対象は立命館大学全学部、大学コンソーシアム京都加盟校、京都カレッジ生社会人)「映画保存の国際的な広がり」とアーカイブ間の協力—FIAFの活動を中心に—」／立命館大学特殊講義「映像学「映像文化の創造と倫理」」(会場：立命館大学映像学部、2010年4月30日)

標記シンポジウムのアジア部門パネルと司会(英語)「シネマテーク—新たな観客を求めて(Cinematheques – In Search of New Audiences)」／第65回国際フィルム・アーカイブ連盟会議(会場：シネマテーク・アルヘンティーナ(ブエノスアイレス)、2009年5月25日)

講演「フィルム・アーカイブと映画上映の未来」／全国コミュニティシネマ会議2009 in 川崎(会場：新百合トウェンティワンホール、2009年9月4日)

講演「世界のフィルム・アーカイブを展望する」／あいち国際女性映画祭2009(会場：ウィルあいち3階会議室、2009年9月6日)

講演とパネルディスカッション(英語、他のパネリスト：ガブリエル・クラス、エリック・ルロワ他)「21世紀のフィルム・アーカイブとデジタル化(Film Archives and Digitization in the 21st Century)」／ギリシャ国立フィルム・アーカイブ主催セミナー(会場：ギリシャ国立フィルム・アーカイブ(アテネ)、2009年10月11日)

講演「FIAFとフィルムセンター(Introducing FIAF and NFC)」／中国電影資料館主催セミナー(会場：中国電影資料館(北京)、2009年10月22日)

ゲストトーク(聞き手:堀家敬嗣、阿部一直)「映画フィルムの保存と地方映像の重要性」/巡回上映「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」(会場:山口情報芸術センター(スタジオC)、2009年12月19日)

講演とパネル「映像アーカイブとメディア文化財の活用」/日本学術会議社会科学委員会メディア文化研究分科会(会場:日本学術会議講堂、2010年1月30日)

対談:松本正道「映画上映の未来」/映画美学校・映画上映専門家養成講座「シネマ・マネジメント・ワークショップ」(会場:映画美学校、2010年3月16日)

講演とパネルディスカッション「映像アーカイブの現状と未来」/サイエンス映像学会第3回大会シンポジウム(会場:サピアタワー(9階ホール)、2010年3月21日)

◆岡田秀則

朝刊文化欄『ドキュメンタリー作家 土本典昭』展に寄せてよみがえる「魂の労働」/公明新聞(公明新聞社、2009年7月5日)

インタビュー「シネマテークと映像教育の可能性」/『シネリテラシー』vol.1(早美出版社、2009年9月17日)

オランダで出版された研究書「*The Rise and Fall of the Nippon Eigasha Jakarta Studio*」/『*The Encyclopedia of Indonesia in the Pacific War*』(Brill、2010年1月)

研究ノート「撮る」と「撮られる」—眼の座標をめぐって:ドキュメンタリー映画の歴史から」/『コンフリクトの人文学』第2号(大阪大学出版会、2010年3月15日)

講演「Non-film (ノンフィルム) フランスの映画資料保存」/映画保存協会ゲストレクチャーNo.8(会場:協和会の蔵、2009年4月21日)

対談とパネルディスカッション「たのしい科学—岩波映画の理科教室」/記録映画アーカイブ・プロジェクト 第2回ワークショップ(会場:東京大学情報学環・福武ホール、2009年10月18日)

講演「川喜多かしこの映画人生」/鎌倉市教養センター一般教養講座(会場:鎌倉市教養センター、2009年11月2日)

「ディレタントの滴—新外映とフランス映画ポスター」/『戦後フランス映画ポスターの世界 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵《新外映コレクション》より』(フィルムセンター編集、2010年1月7日)

◆榎木 章(発表者名=とちぎあきら)

「国立美術館・博物館研究員は語る」欄「文化財としての映画フィルム」/『文部科学時報』平成21年4月号 No.1599(2009年4月10日)

「映画『紅葉狩』の重要文化財指定について」/『映画テレビ技術』2009年8月号 No.684(社団法人日本映画テレビ技術協会、2009年8月1日)

講演「『はかりごと』としてのフィルム・アーカイビング—映画フィルムにおける規格を巡って」/立命館大学映像学部現代GP特殊講義(会場:立命館大学映像学部、2009年4月23日)

パネルディスカッション「映像学芸員/映像アート・マネージャーの育成」/全国コミュニティシネマ会議2009 in川崎 分科会2(会場:新百合トウェンティワンホール会議室、2009年9月5日)

講演「『映画を残す』という仕事—映画上映を志す人のためのフィルム・アーカイブ入門」/映画美学校・映画上映専門家養成講座「シネマ・マネジメント・ワークショップ」(会場:映画美学校、2009年9月15日)

講演「国立台湾歴史博物館所蔵戦前日本アニメーション映画について」／国際ワークショップ「植民地期台湾の映画フィルム史料に関する研究」(会場：日本大学文理学部、2009年9月26日)

パネルディスカッション「桐生市立図書館旧蔵CIE映画のフィルム・アーカイビング」／新潟大学人文学部、愛媛大学法文学部学際協定事業シンポジウム「にいがた 戦争から占領へ 映像で探る記憶のたび」(会場：新潟県立生涯学習推進センターホール、2009年12月19日)

講演「生きた記憶としてのフィルム・アーカイブ」／神戸映画資料館を支える会 会議2010 (会場：神戸映画資料館、2010年1月30日)

◆その他

カタログ「戦後フランス映画ポスターの世界」展 (フィルムセンター編集 2010年1月7日)

※以下の「NFCニューズレター」に発表した論文等は除く

【平成20年度】

NFCニューズレター 78号(2008年4月-5月号)～83号(2009年2月-3月号)

【平成21年度】

NFCニューズレター 84号(2009年4月-5月号)～89号(2010年2月-3月号)